

平成 30 年 1 月 29 日

広島市立大学COC+平成29年度事業の実施状況

1 平成 29 年度事業の概要

区分	項目	内容
教育カリキュラムの整備・推進等	①地域貢献特定プログラム ②単位互換 ③寄付講座 ④全学COC+研修会 ⑤COC+フォーラム ⑥インターンシップ	①平成 28 年度から地域志向カリキュラムとして開始したプログラム(14 科目)を 23 科目に拡充するとともに、新規に「地域課題演習」「地域再生論入門」「地域再生論」「観光情報学」を開講した。 ②参加校 6 校の地域志向科目 17 科目の単位互換を開始した。 ③「マツダ共創ゼミ」を芸術学部において開始した。 ④全教職員への研修を 1 回実施した。年度内にさらに 1 回を計画している。 ⑤事業協働地域に呼びかけ 1 月 29 日に開催する。 ⑥地域の企業・自治体へのインターンシップを強化・促進した。
観光関連データベースの構築と活用	①データの収集 ②データの活用	①各種データの登録を進め、コンテンツ総数は約 5 5 万件となった。 ②地域貢献特定プログラムの科目(観光情報学、地域課題演習)等において活用した。
教育研究事業の推進	①アートプロジェクト ②基町プロジェクト ③宮島の教育研究拠点施設 ④COC+特定研究等 ⑤参加校による協働研究事業 ⑥大学連携による学生の観光研究・活動発表会 ⑦サテライト講座	①「広島ニュートラベル」をテーマに、5 市町において 10 のプロジェクトを実施している。 ②広島市中区基町の活動拠点「M98」、「M98 <eat>」、「M98 <make>」に加え、「M98 <join>」を整備し、コミュニティデザイン活動を進めた。 ③廿日市市宮島に開設した「サテライトハウス宮島」において、作品の制作展示、講座開催等を行った。 ④本学のCOC+特定研究、社会連携プロジェクトCOC+枠による研究等を実施している。 ⑤参加校と連携し、地域での教育研究事業を実施した ⑥7大学の学生による初めての発表会を宮島において開催した。 ⑦高校生の地域内進学を促進する初めてのサテライト講座を柳井市において実施した。
事業運営	①推進組織の運営等 ②広報 ③外部評価委員会	①新たに、事業協働機関として(一社)しまなみジャパンが参加し、事業の一部を協力する協力校として比治山大学が参加した。 COC+運営部会(学内)など推進組織を運営し事業の推進、調整を行った。 ②ニューズレター第 6 号、第 7 号を発行し、第 8 号を 3 月に発行する。専用ホームページにより情報を発信した。事業活動を紹介するパンフレットを発行した。 ③外部評価委員会を 7 月 5 日に開催し、平成 28 年度事業について「計画を上回った実績を挙げている」との評価を受けた。

2 教育カリキュラムの整備・推進等

(1) 地域貢献特定プログラム

本学が実施するCOC+の教育カリキュラムである地域貢献特定プログラムは、地域志向型科目として「広島を知る」「広島を感じる」「広島を問う」「広島に挑戦する」という4つのステップを、全学共通系科目や専門教育科目において学習・経験できるよう編成している。

平成29年度は、科目数を9科目増やして23科目に拡充した。新規開講科目である「地域課題演習」「地域再生論入門」「地域再生論」「観光情報学」を実施するとともに、平成30年度から新規に開講する「地域実践演習」の準備を行った。

【地域貢献特定プログラム科目編成】

科目区分		科目名	単位数	年次・学期	履修人数
全学共通系科目	総合科目	[新]地域再生論入門	2	1・2年・29年度前期～	22
		創作と人間	2	1・2年・前期	136
		NPO論	2	1・2年・前期	54
	広島科目	[新]広島の観光学	2	1・2年・28年度後期～	73
		ひろしま論	2	1・2年・後期	365
		広島の産業と技術	2	1・2年・後期	232
		[新]地域課題演習	1	2年次・29年度通年～	60
国際学部 専門教育科目	公共政策・NPOプログラム	[新]地域再生論	2	2・3年・29年度後期～	77
		非営利組織論Ⅰ	2	2年前期	17
		非営利組織論Ⅱ	2	2年後期	10
		交通論	2	2年前期	10
		スポーツ文化経営論	2	2年後期	26
		フィールドワーク論	2	2年後期	13
		経営史	2	2年前期	1
	専門演習	[新]専門演習Ⅰ（地域実践演習）	1	3年・30年度前期～	—
		[新]専門演習Ⅱ（地域実践演習）	1	3年・30年度後期～	—
情報科学部 専門教育科目	専門基礎科目・専門科目 （学部共通科目）	[新]観光情報学	2	2・3年・29年度前期～	33
		インターンシップ	2	3年次	—
		[新]地域実践演習	1	3年次・30年度～	—
芸術学部 専門教育科目	専門基礎科目	アートマネジメント概論	2	2年・後期	38
		造形応用研究Ⅰ	2	2・3・4年次	0
		造形応用研究Ⅱ	2	3・4年次	—
		[新]地域実践演習	1	3年次・30年度～	—

■ 29年度に拡充した講座 [新]28年度入学生対象の新規科目

【平成 29 年度開講「地域課題演習」の内容】

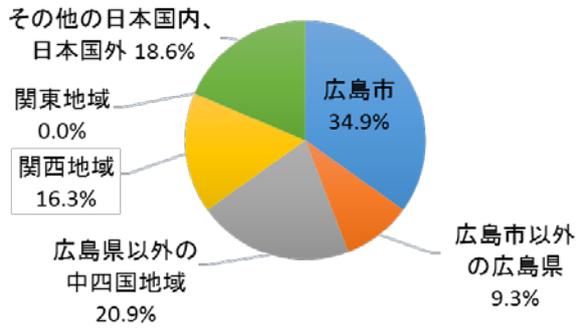
広島市を中心とした一帯の経済生活圏域は、市町ごとに多彩な環境や文化等を有しており、この地域の魅力や資源、人々の取組などを学習し、現地において知見や考察を深め、地域の特性や課題について理解することを目指す。地域を知るための入門演習として構成した。(履修者数 60 名)



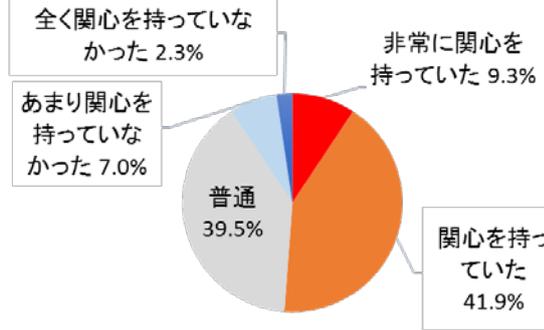
「地域課題演習」の概要			
演習担当教員 主担当 10 名、副担当 10 名			
【演習テーマ】 次の①から⑩までのテーマを設定し、学生の希望を調整し★印の6テーマを実施した。			
テーマ名(内容)	地域名	主担当教員	履修学生
① ★瀬戸内海の水産と魚の楽しみ方を知る (広島市水産振興センターでの講義と調理実習、県立水産海洋技術センターでのフォアグラハギ養殖の学習と体験)	広島市、呉市	国際学部 山口光明教授	6名
② ★瀬戸内の島をPRする観光映像を作る (竹原市、大久野島の観光資源を再認識し、情報技術を活用し新しい角度から魅力的に伝える)	竹原市	情報科学研究科 島 和之准教授	15名
③ ★しまなみ海道を自転車で走って行動情報を収集する (GPS ロガーにより行動情報を収集しデータを分析する)	尾道市	情報科学研究科 竹澤寿幸教授	14名
④ 中島町・基町ツアー	広島市	芸術学部 中村 圭講師	—
⑤ 都市河川の活用と水遊体験	広島市	芸術学部 藤江竜太郎講師	—
⑥ ★中山間地域の食文化とライフスタイルを知る (獣害の状況やジビエを学び、若い移住者の里山でのライフスタイル体験する)	安芸高田市	社会連携センター 三上賢治特任助教	16名
⑦ 宮島の歴史や文化を知り、観光地としての今を考える	廿日市市	社会連携センター 國本善平特任教授	—
⑧ ★半島地域の自然・歴史・味を感じる (上関での「スローな観光は可能か」をテーマに、現地体験とワークショップ型講義により魅力と課題を整理)	上関町	社会連携センター 佐藤俊雄特任教授	4名
⑨ ★尾道の歴史や文化を感じる (歴史、街並み再生を学習し現地を探訪し成果マップを作成する)	尾道市	社会連携センター 吉岡研一特任准教授	5名
⑩ スマホを使ってスタンプでGO(岩国編)	岩国市	社会連携センター 植松敏美特任助教	—

「地域課題演習」履修生アンケート

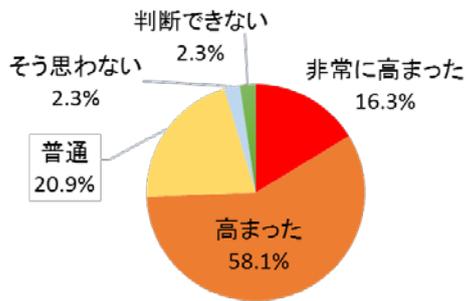
出身地(出身高校の所在地)



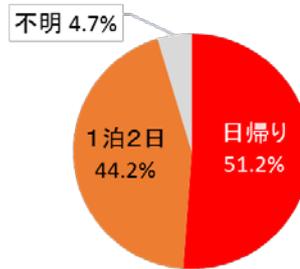
受講前の地域への関心度



受講後の地域への関心度

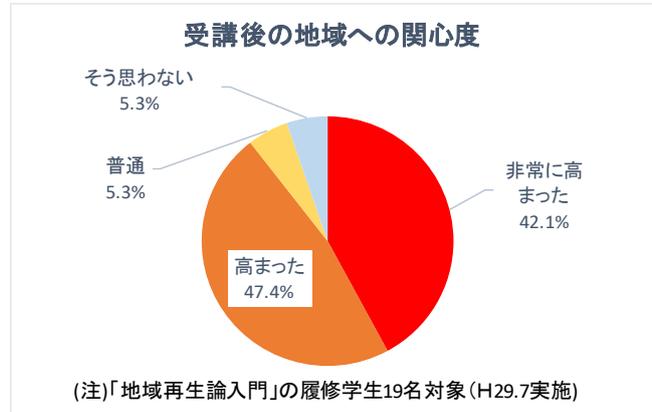


現地活動の日程の希望



【平成 29 年度開講「地域再生論入門」の内容】

都市と中山間地域のそれぞれのフィールドにおいて、持続性のある地域づくりが課題となっているが、強みとなる地域資源を活かした産業振興、人口減少に対応した地域づくり等の地域再生の最新の動向と方法論について、事業協働地域への調査を行い、地域で活躍しているゲスト講師も交えて講義する構成とした。COC+単位互換科目として実施。(履修者数 22 名)



「地域再生論入門」の構成

1. イントロダクション
2. 広島市の都心再生
3. 日本初のボールパークによる広島の活性化
4. 公共空間を活用した都心の賑わい創出
5. 郊外住宅団地の再生
6. 起業の拠点づくり
7. 小さな企業の連携による新商品開発
8. 空家再生による都市の再生
9. 建築遺産を活用したまちづくり
10. 中山間地域における交通と生活拠点機能の確保
11. 移住による中山間地域の再生
12. IT産業の誘致等による中山間地域の再生
13. 六次産業化や法人経営による農業の再生
14. 高付加価値化と再生可能エネルギーによる林業の再生
15. 人材育成と連携による地域再生

【平成 29 年度開講「地域再生論」の内容】

地方格差を拡大させてきた社会・経済環境の変遷と今日の諸課題の実態について学んだ上で、地域再生のためのアイデアについて、グローバルな視点を交えながら考え、さらに持続可能な地域再生の方策のあり方について展望していく構成とした。COC+単位互換科目として実施。(履修者数 77 名)



「地域再生論」の構成

1. 問題提起 ① 地域再生の背景 ② 地方の課題 ③ 地域再生は何をめざし誰が担うのか地域再生の方策 ④ まちづくりと公共交通(広島市) ⑤ 地域志向ビジネス ⑥ 地域ブランディング
2. 地域再生のアイデア ⑦ 「日本の地域再生のための提言」特別講師:D.アトキンソン ⑧ 健康づくりと地域づくり ⑨ 離島というフロンティア(海士町) ⑩ 野生生物と環境 ⑪ 都市の高齢化・人口減少をめぐる課題と対策
3. グローバルな視点 ⑫ 社会的包摂をめざした交通政策の失敗 ⑬ 都市化と地方の空洞化 ⑭ 地域振興政策の系譜 競争 vs.再分配 ⑮ まとめ

【平成 29 年度開講「観光情報学」の内容】

観光情報学は、情報の観点から観光を捉える新しい学問分野である。観光情報学の基礎と、演習を通して情報技術の活用方法を学ぶ。演習では、COC+観光関連データベースの構築、テキスト情報を利用した観光地イメージの分析を行い、成果を発表した。COC+単位互換科目として実施。(履修者数 33 名)



「観光情報学」の構成	
1. 観光情報学とは	2. 情報化時代の観光行動
3. 観光情報に関するサービスや研究	4. 観光関連データベース構築に関する取組
5. データベースの基礎:SQL	6. 観光関連データベース
7. [グループ演習] 広島関連の観光情報を収集	8. [グループ演習] 広島関連の観光情報をデータベースに登録
9. テキスト情報を利用した観光地イメージの分析	10. テキストマイニングの基礎 I
11. テキストマイニングの基礎 II	12. [グループ演習] 観光地イメージを抽出
13. [グループ演習] 観光地イメージについて分析	14. 発表資料の作成
15. グループ毎の発表	

(2) 単位互換制度の実施

参加校における連携と交流を進めることでCOC+教育プログラムのカリキュラムの充実を図ることを目的として、参加校間での単位互換制度を開始した。

【単位互換の内容】

COC+事業に参加する各校が提供する地域志向型科目を、参加校の学生が単位互換生として履修し、科目提供大学における成績をもとに、学生の所属大学において単位認定する(協定の締結は平成 29 年 1 月)。単位互換科目は、学生の受講の利便性を考慮し、遠隔講義システムの使用が可能な科目や集中講義形式での実施が可能な科目を中心とした。

【単位互換の状況】

平成 29 年度は、右の表のとおり 6 校から、17 科目が提供された。

学生の出願状況は、尾道市立大学、広島経済大学、安田女子大学の 3 校から 7 名が制度(3科目※)を利用した。

※「広島を学ぶ」「創作と人間」「観光情報学」

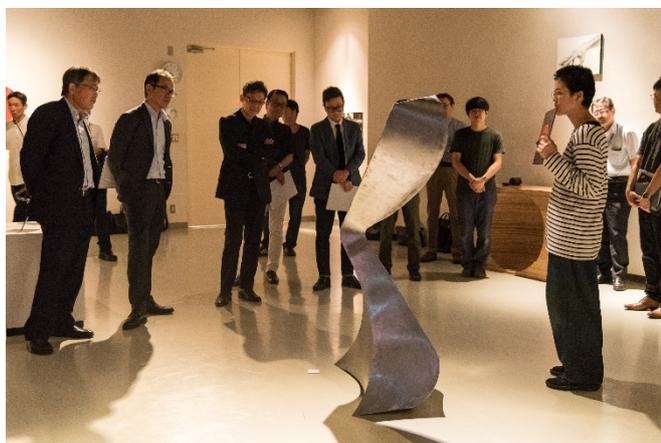
COC+単位互換科目 (平成29年度実施分)			
尾道市立大学	教養教育科目	地域の伝統文化(囲碁)	
	芸術文化学部	瀬戸内文化論	
広島経済大学	経済学部	広島を学ぶ	
		広島の歴史と文化	
広島修道大学	修道スタンダード科目	地域コミュニケーション論	
安田女子大学	現代ビジネス学部	地域経済学	
		観光政策論	
広島商船高等専門学校		社会基盤論	
広島市立大学	全学共通	地域再生論入門	
		創作と人間	
		NPO論	
		ひろしま論	
		広島の観光学	
		広島の産業と技術	
		国際学部	地域再生論
		情報科学部	観光情報学(集中講義)
		芸術学部	アートマネジメント概論

(3) 寄付講座「マツダ・広島市立大学芸術学部共創ゼミ」の実施

マツダ(株)と広島市立大学芸術学部が協働して、広島が世界に誇れるモノづくりの拠点となることを目指し、今年度から「マツダ・広島市立大学芸術学部共創ゼミ」を開講した。これは、本学ならではの取り組みであり、芸術学部の専攻を超えて学生 12 名が実践的な学びや制作に臨んだ。

今年度のゼミ最終日となった昨年 9 月 8 日、本学芸術資料館において、学生が、その成果である作品についてプレゼンテーションを行い、アドバイザリーボードである前田客員教授(マツダ(株)常務執行役員)から評価・講評を受けた。

開設期間:平成 29 年度～31 年度(延長予定)
対象:芸術学部2年次以上の学部生、芸術学研究科の大学院生等。
 定員 10 名～15 名
内容:マツダ(株)からの派遣講師と芸術学部教員の指導のもとで演習を行う。
代表教員:広島市立大学芸術学部 吉田幸弘教授
 マツダ(株)デザイン本部クリエイティブデザインエキスパート 高橋耕介氏
担当教員:広島市立大学芸術学部 大塚智嗣准教授
 同 野田睦美准教授 同 藤江竜太郎講師
アドバイザリーボード※:マツダ(株)常務執行役員 前田育男氏
 ※作品審査やゼミ活動の助言を行う。



(4) 全学COC+研修会

全学研修会の開催により、学内でのCOC+推進への理解促進や気運の醸成を図った。

【平成 29 年度第 1 回開催内容】

日時	平成 29 年 11 月 30 日(木) 16:20～17:50
会場	講堂(小ホール)
対象	全教職員
内容	「地域課題演習・初年度の取組の報告」 報告者:社会連携センター 國本善平特任教授 ほか担当教員 ・COC+教育カリキュラムにおける位置づけ ・準備過程、シラバスの内容 ・実施テーマ、履修学生、実施マニュアル、実施日程、発表会 ・各テーマの報告、受講生アンケート結果 ・H30 年度の設定テーマとスケジュール
参加人数	65名

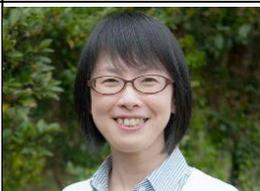
【平成 29 年度第 2 回開催予定】

- ・日 時 平成 30 年 2 月 19 日 (月) 14:40~16:10
- ・講 師 広島経済大学 濱田敏彦教授
(教育・学習支援センター長、興動館科目創造センター長)
- ・講演テーマ 「広島経済大学の興動館教育プログラム・ゼロから立ち上げる興動人」(仮題)

(5) COC+フォーラムの開催

若者の地域への思いや関心、志向を受け止めるためには、人と地域とを柔軟に結びつける多様なチャンネルが必要になっている。このため、「関係人口をつくる」ことを提唱し実践する田中輝美氏の講演を軸に、これからの地域づくりのあり方を考える内容とした。併せて、大学と地域との新たな関係をつむぐCOC+事業における、学生のアートプロジェクトの活動や、地域の観光データの集積と活用について報告する。

【COC+フォーラム 2018 の内容】

日 時	平成 30 年 1 月 29 日(月) 15:00~17:00
会 場	広島市総合福祉センター・ホール
テーマ	「しなやかな地域づくり」 若者を惹きつける地域のあり方とは。人と地域との新しい関係づくりを考える。
内 容	 <p>① 基調講演:ローカルジャーナリスト 田中輝美氏 テーマ「関係人口をつくる」 定住でも交流でもないローカルイノベーション</p> <p>① 報告1:広島市立大学社会連携センター 三上賢治特任助教 テーマ「COC+アートプロジェクト 2016-2017」 ② 報告2:広島市立大学社会連携センター 吉岡研一特任准教授 テーマ「観光関連データベースの構築と活用について」</p>
参加定員	150名

(6) 企業等へのインターンシップの促進

本学における企業等へのインターンシップの実施状況は以下のとおり。平成 29 年度は受入れ企業等の数が増加した。その一方で参加する学生数は伸び悩んでおり、入学時からの就職・キャリア形成に向けた支援を充実する中で、インターンシップの活用を促していく必要があり、平成 30 年度において、キャリア教育関連科目の見直しや設計を行っていく予定である。

【インターンシップ受入れ企業数】 ※ () はCOC+協働機関

区分	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
受入れ企業・団体の数	84社・団体 (58)	103社・団体 (70)	260社・団体 (127)

平成 29 年度は 12 月末現在

【インターンシップの参加学生数】 ※ () はCOC+協働機関におけるインターンシップ

区分	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
企業等インターンシップ	42名(39)	63名(47)	72名(46)
広島市有給長期 インターンシップ	5名(5)	3名(3)	3名(0)
広島県インターンシップ 促進協議会	2名(0)	1名(0)	0名(0)
その他のインターンシップ	6名(0)	4名(0)	2名(0)
合計	55名(44)	71名(50)	77名(49)

平成 29 年度は 12 月末現在

これに加えて、平成 29 年度に、地元企業への学生の理解を深める事業として、本学において「地元企業経営者パネル討論会」を開催した（参加企業 4 社、参加学生・教員約 70 名）。

また、協働機関である(一社)中国経済連合会においては、学生が地域企業の経営者・社員との懇談を通じて働く意義を考える事業として、『働く魅力を知る』企業訪問半日コース（参加企業 17 社）が実施された。今後は、こうした事業への連携を強化する。



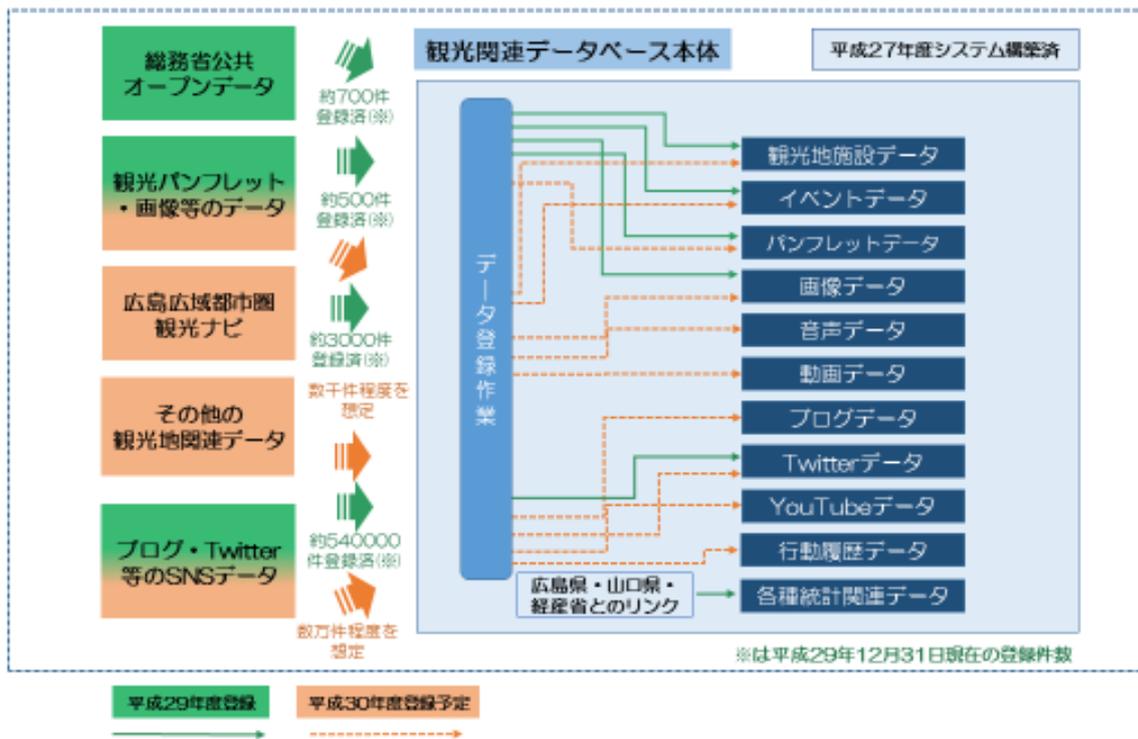
3 観光関連データベースの構築と活用

(1) データの収集と公開準備

事業協働地域内における観光施設や観光資源、観光振興の事例、SNS データ等を集積した「観光関連データベース」の構築を進め、平成29年12月末現在の登録数は約55万件となっている。

平成29年度中に、セキュリティ等を含めた運用方法について調整を行い、マニュアルを作成し、平成30年度に関係機関における閲覧が可能になるよう準備を進めている。

【観光関連データベースの進捗状況】



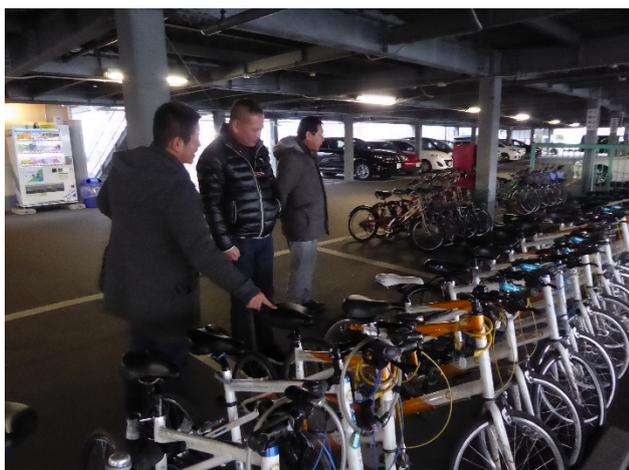
【観光関連データベースの登録数】

登録コンテンツ 【平成29年度登録完了件数】	データエリア / 言語
・観光地施設データ : 【約3500件】	広島・山口(25市町) : 日本語
・イベントデータ : 【約3000件】	広島・山口(25市町) : 日本語
・パンフレット/音声/動画 : 【約500件】	広島・山口(25市町) : 日本語
・観光地等 画像データ : 【約3000件】	広島・山口(25市町) : 日本語
・SNSデータ(ブログ) : 【約1万件】 (Twitter) : 【約40万件】 (YouTube) : 【約13万件】	国内全般・一部海外 : 日本語・英語 広島・山口・国内観光地 : 日本語 国内全般 : 日本語
・行動履歴データ : 【30件】	しまなみ海道・尾道・竹原・岩国他
総データ数 : 【約55万件】	

(2) データの活用

構築したデータベースは、平成 29 年度から教育研究の素材として「観光情報学」や「地域課題演習」等への活用を行い、さらには平成 30 年度以降、大学、自治体、企業等での活用を想定している。

その手始めとして、(一社)しまなみジャパンとの協働による調査研究となる「しまなみ観光サイクリストの行動情報収集プロジェクト」を開始した。平成 29 年度は予備調査を行い、平成 30 年度に本調査を行う予定。ここで得られたデータを登録・公表するとともに、協働実施の経験や成果を他の機関との連携へのリーディングケースとしたい。



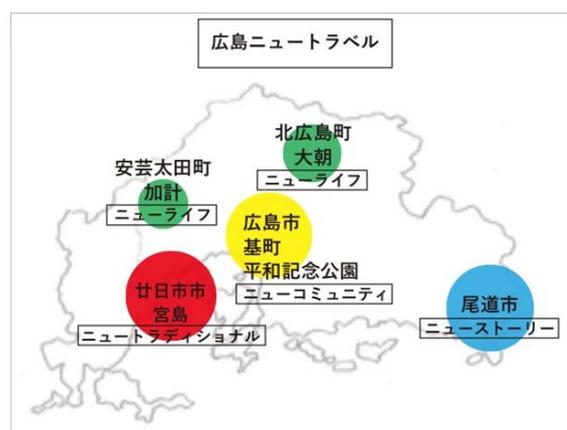
4 教育研究事業の推進

(1) アートプロジェクト

平成 28 年度に実施地域の拡大を検討し、新たな地域として、北広島町大朝（筏津芸術村で彫刻等の創作活動）、安芸太田町加計（製鉄文化をテーマにした作品制作）、尾道市（尾道市立大学との協働による空き家再生プロジェクト等）のプロジェクトを加えた。

プロジェクトの統一テーマを「広島ニュートラベル」とし、瀬戸内、広島市都市部、中山間地の各地域において、アート活動により人をいざない交流を進めることをコンセプトに、芸術学部が参加大学や地域と協働しながら、作品制作・展示・ワークショップ、地域活動等を実施した。

各エリアには、サブテーマとして「ニュートラディショナル」（宮島）、「ニューコミュニティ」（基町、平和記念公園等）、「ニューライフ」（大朝、加計）「ニューストーリー」（尾道）を設定し、全体として 5 地域 10 のプロジェクトに芸術学部の全 10 専攻の学生・教員約 140 名が参加した。



平成 29 年度 アートプロジェクト		
地域 「サブテーマ」	プロジェクト	内 容 (太字は新規)
廿日市市 宮島 「ニュー トラディショナル」	宮島 双六プロジェクト	・宮島の歴史や伝統文化、地域特性をテーマに板目木版画技法を用いた新しいデザインによる「宮島双六観光マップ」を制作。成果物をサテライトハウス宮島で展示（油絵専攻/参加学生8名）
	宮島 ものづくり産業復興プロジェクト	・宮島伝統産業会館を活用した宮島轆轤の技術習得、轆轤道具と材料の研究と作品制作(漆造形/参加学生6名) ・ 全国の木工轆轤の歴史・特徴・技術・現状から次世代への技術継承をテーマに「広島発轆轤の芸術祭」をサテライトハウス宮島で開催
	宮島 染織プロジェクト	・サテライトハウス宮島を活用した世界遺産登録20周年を記念する空間演出として「宮島に平和の明かりを灯そう」をテーマとした染織造形を制作・展示(染織造形/参加学生18名)
広島市 基町 「ニューコミュニティ」	基町プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・M98 <join>の設置(作品展示・交流スペースとして活用) ・オープンミーティングの開催(毎月第3土曜日に学生や基町地区住民との交流) ・クリエイター・イン・モトマチの実施(若手クリエイターによる基町住宅地区内のサインデザイン「基町リデザイン」) ・モトマチ・アートウィンドウの開催 ・Mトークの実施 ・「もともちカフェ」の実施(広島修道大学との協働) ・創作スタジオ「M98<make>」で、未来の基町を考える模型を制作 ・基町の歴史や魅力を紹介する「基町、昔の写真展」を開催 ・キッチンスタジオ「M98<eat>」で、グローバルキッチンプロジェクトを開催(安田女子大学との協働)
広島市 市内中心部 「ニューコミュニティ」	観光客に伝えたい新しい広島	広島市外(海外を含む)から広島へ観光に来ようと考えている人々へ、新しい視点でのビジュアルイメージを伝える(視覚造形/参加学生19名)
広島市 平和記念公園 「ニューコミュニティ」	広島ピースプロジェクト	NHK 広島放送局と長崎放送局が2007年から毎年放送している特集番組「ヒバクシャからの手紙」をNHK 広島放送局と協働し、8月の放送へ向けた記録映像を学生が主体となって制作(映像メディア造形参加学生5名)
北広島町 大朝 「ニューライフ」	篠津くいかだづプロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・彫刻専攻と立体造形の学生が創作活動スペースの篠津芸術村に滞在し、現地の材料を使って作品を共同制作する ・作品を篠津芸術村等で展示(彫刻専攻、立体造形/参加学生20名)
安芸太田町 加計 「ニューライフ」	たたらプロジェクト	安芸太田町を中心とした地域特有のたたら製鉄文化を学習し、鉄をテーマにした作品制作と展示(金属造形/参加学生8名)
尾道市 「ニューストーリー」	尾道プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・尾道市立大学との協働プロジェクトを実施 尾道アーティストインレジデンス(AIR 尾道)に滞在するアーティストの空き家再生プロジェクトに市大生と尾道市大生が協働し、ワークショップや作品制作等を行い、その成果をAIR 尾道の展示スペースで発表(現代表現/参加学生11名)
	日本画 風景プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・尾道の風景をテーマに味わいのある街並みや港の風景を取材、日本画制作の基となるスケッチを現地で行い、作品制作。完成後にオープンキャンパス等で展示(日本画専攻/参加学生20名)

(2) 基町プロジェクト (※主な内容はアートプロジェクトに記載)

広島市中区役所からの受託研究をベースとして、高齢化などの地域課題に対して、教員、学生が地域住民と一緒に話し合いながら様々なプロジェクトを進めている。アートプロジェクトの一環としても行っている。「M98」を拠点としながら、平成 28 年度において、空き店舗をリノベーションした「M98 <make>」と「M98 <eat>」の2つの活動スペースを整備したのに加え、平成 29 年度は「M98 <join>」を整備し、作品展示や交流スペースとして活用を開始した。



(3) 宮島の教育研究拠点

本学とCOC+参加校の教職員・学生が宮島において教育研究の場とするため、平成 28 年 10 月に開設した広島市立大学COC+宮島教育研究施設（通称：サテライトハウス宮島）について、平成 29 年 6 月から本格的な運用を開始した。

名称	広島市立大学COC+宮島教育研究施設 (通称:サテライトハウス宮島)
所在地	廿日市市宮島町 672 番地 旧「因幡邸」
開設期間	平成 28 年 10 月 1 日から平成 32 年 3 月 31 日まで(予定)
施設概要	宮島における貴重な町家のひとつ。木造切妻造り(一部2階建て)の京都型町家建築で通り土間、坪庭を有す。
活用内容	宮島をテーマにした作品制作や展示、講座・セミナーの開催、フィールドワークの拠点としての活用等を想定。 (利用者:本学及びCOC+参加校の教職員・学生) ■主な利用状況(平成 29 年 12 月末現在) 芸術展示(開設記念展等)4回、芸術学部の現地演習2回、外国人観光客向けのイベント2回、市民向け講座(広島工業大学土曜講座)1回、観光に関する学生の研究・活動発表会現地視察1回、日本都市計画学会視察 1 回、その他、NHK「ひるブラ」による紹介



(4) COC+特定研究等の実施

学内の競争的研究資金として、新たにCOC+研究費を設けるとともに、社会連携プロジェクトにCOC+関連事業経費を追加。学内公募を行い、次の7つの研究テーマが採択された。

区分	研究テーマ
COC+研究費	COC+事業における先導的アートプロジェクトの実施と人材育成のための基盤研究(前年度より継続)
	瀬戸内の観光振興と外国人観光客のインバウンドを目指した地域活性化プロジェクト(前年度より継続)
社会連携 プロジェクト費 COC+関連	旅行対象者の観光情報ツールを活用した地域観光振興プロジェクト
	尾道市立大学と連携したアーティストによる空き家再生事業
	しまなみ観光サイクリストの行動情報収集プロジェクト
	基町プロジェクトと連動する「地域課題演習」及び「地域実践演習」メニュー開発と、その教育環境のための包括的整備
	厳島八景に関する教育事業(前年度より継続)

(5) 参加校による協働研究事業の実施

COC+参加校が協働で(または単独で)、地域志向の教育研究プログラムを次のとおり実施した。

学校名	事業名(テーマ)
広島大学	世界遺産宮島を構成する弥山原始林の価値を確認し、歴史的・文化的資源と一体となった保全・活用を考える
尾道市立大学	アートプロジェクトの実施
広島経済大学	観光振興による「海の国際文化生活圏」創生に向けた人材育成事業(学生による観光資源等の再発見と発信)
広島工業大学	宮島・土曜講座
広島国際大学	中山間地域と島しょ部との交流による地域活性化プロジェクト
広島修道大学	観光振興による「海の国際文化生活圏」創生に向けた人材育成事業もとまちカフェ
安田女子大学	「グローバルキッチンプロジェクト」への参画
広島商船高等専門学校	高齢者健康調査(企画名:お達者自慢)

(6) 大学連携による学生の観光研究・活動発表会の開催

学生の観光に関する学習・研究意欲を高め、地域を志向するマインドやネットワークの醸成を図るため、広島市立大学が呼びかけを行い、COC+の参加6大学と比治山大学（協力校）が合同して、COC+の協働研究事業として実施した。観光に関連する学生の研究や活動に関する広島地域での初めての大学間交流事業となった。開催は平成29年の12月16日と17日の二日間、会場は、廿日市市の広島経済大学の宮島セミナーハウス成風館。参加した学生は65名、教員は23名。

発表されたテーマは14。それぞれのテーマ設定により、地域への関わり方や分析や考察の方法に特徴があり、プレゼンテーションも多彩に行われた。

観光に関する研究・活動発表会【プログラム】

- 【1日目】 ①学生の研究・活動発表（7大学）
 ②特別講演「おいしいからおいしいへ、地元の旬の食材を地元の宝に変える」
 （錦水館社長 武内恒則氏）
 ③広島の食資源勉強会兼交流会
- 【2日目】 現地講義（テーマ：町家通り）
 ①宮島の景観保全と重伝建
 （広島市立大学 佐藤俊雄特任教授）
 ②町家と町並みの空間特性
 （広島工業大学 森保洋之名誉教授）
 ③まちづくりと町家再生
 （ゲストハウス菊がわ代表 菊川照将氏）
 現地視察



14の発表テーマ

【宮島の観光】

- ① 宮島の魅力を発信したいプロジェクト（広島経済大学）
- ② 宮島双六観光マップ製作プロジェクト（広島市立大学）
- ③ 宮島を最大限に楽しめるルートの提案（広島工業大学）
- ④ 宮島の町家通りにおける無電柱化の方策とその効果に関する研究（広島工業大学）
- ⑤ 宮島の森林植生の現状把握のための基礎研究（広島大学）

【多様な地域資源を活用した観光】

- ⑥ 「ここ廿」がプロデュース!! さとやまを応援するラジオ番組制作（比治山大学）
- ⑦ 「トワイライト エクスプレス瑞風」を活かした瀬戸内の魅力発信（広島市立大学）
- ⑧ 広島は世界遺産だけじゃない～広島を滞在型観光地に～（安田女子大学）
- ⑨ 地域資源を活用した「道の駅」連携バスツアーの企画考案（比治山大学）
- ⑩ 島における観光：①島の観光イメージ・②観光と動物（広島大学）

【サイクリングと海外交流資源を活用した観光】

- ⑪ とびしま海道の観光とサイクリング（広島修道大学）
- ⑫ しまなみサイクリング GPS ロガー解析（広島市立大学）
- ⑬ 海外移住のルーツを巡ろう TOUR（安田女子大学）
- ⑭ 朝鮮通信使を巡る旅 in 瀬戸内（広島経済大学）



(7) サテライト講座の開催

事業協働地域の若い世代の人口流出を防ぎ、地元への定着をいかに図るかが課題となっている。その対策の一つとして、高校生の地元大学への関心を高めるための事業を行うことで、地域内への進学の道を示し、ひいては地域内での就職につながるものとして企画し、実施した。

【実施内容】

対象：柳井広域圏(1市4町)に居住または通学の高校生（高校数7）

会場：柳井市文化福祉会館大会議室

	第1回(10月14日(土))	第2回(10月21日(土))	第3回(10月28日(土))
担当	情報科学部 石光俊介教授	国際学部 山根史博准教授	芸術学部 伊東敏光教授
テーマ	情報科学とサウンドデザイン	なぜ万人が統計学を知るべきなのか？	芸術に何ができるの？ そこから芸術による 新しい街づくりを考えよう！
参加者数	9人(高校生7、先生2)	17人(高校生15、先生2)	高校生6人
参加高校	柳井、柳井学園、大島商船、田布施農工、高水	柳井商工、熊毛南、田布施農工	柳井、柳井商工、熊毛南

関連：講座の前に参加大学の案内パンフレットを配布して紹介を行い、進学を促した。



5 事業運営

(1) 推進組織の運営等

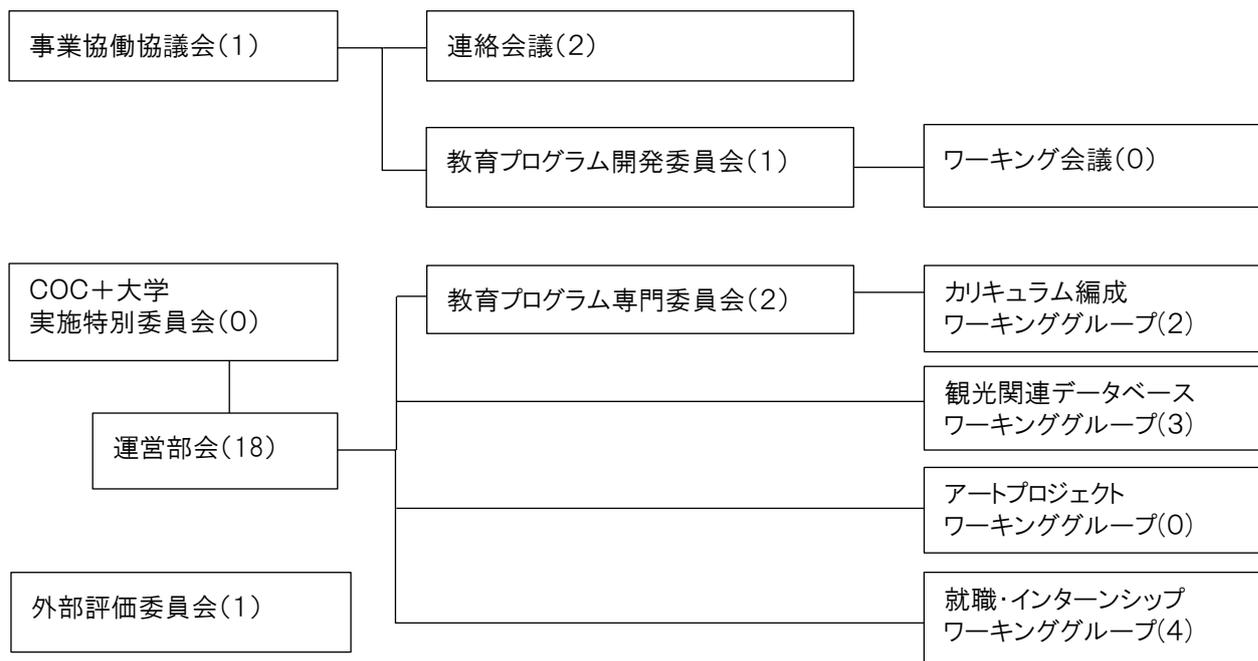
平成29年度において、新たにCOC+事業協働機関に(一社)しまなみジャパンが参加することとなり、また、事業の一部を協力する大学として比治山大学の参加を得た。

【COC+事業協働機関等の変更】

区分	参加時期	機関名
事業協働機関	平成29年12月	一般社団法人しまなみジャパン
事業の一部を協力する大学	平成29年6月	学校法人比治山学園 比治山大学

COC+事業協働協議会及びCOC+大学内の推進組織を次のとおり運営した。

【COC+推進組織の運営状況】 ※()は平成30年1月までの開催回数



(2) 広報

【ニュースレターの発行】

区分	発行時期	内容
第6号	平成29年8月	地域課題演習、アートプロジェクトの状況等
第7号	平成30年1月	学生の観光に関する研究・活動発表会等
第8号	平成30年3月予定	観光関連データベース等

【事業活動紹介パンフレットの発行】

タイトル：「地域に目覚める」地域に貢献する人材の育成

発行時期：平成29年10月

発行部数：3,000部

